

日本電信電話株式会社 横須賀研究開発センタ

会期：2012年3月21日（水）14：30～3月23日（金）15：00 2泊3日

このプログラムでは、NTT研究所で研究開発された最新の情報通信技術に、実際に触れていただくことで情報通信の未来を体感いただくとともに、次の世代の技術者としての芽を育てることを目的としています。

また、講師を始めとした研究者との対話の場を多く設け、研究者の体験を聞くなどのコミュニケーションの中から、参加者の皆さん自身の進路に対するヒントを見つけてもらう場となることが特徴です。

このキャンプを通じて、学生の皆さんに情報通信技術への興味をもってもらい、ひいては、優秀な技術者が育つ一助となることを期待しております。



会場

NTT横須賀研究開発センタ
神奈川県横須賀市光の丘1-1
(京急「YRP野比駅」よりバス約10分)
URL：http://www.ntt.co.jp/cclab/about/access/
宿泊場所：ホテルYRP（予定）

募集人数

16名

キャンプのプログラム内容（予定）

プログラム1【目に見えない動画透かし技術の体験】
「動画透かし」とは、デジタルの動画に、人間の目には見えない情報「電子透かし」を埋め込む技術です。本プログラムでは、電子透かしの概要を説明し、目に見えない透かしが、携帯電話のカメラで撮影すると「見える」ようになり、埋め込まれた情報が読み出せることを実際に体験します。また、デジタルの動画に埋め込む透かしの強さを変えることで、透かしの見え方がどのように変化するかについても実体験していただきます。

プログラム2【超高速ネットワークを支える光通信技術】
最近よく耳にするブロードバンドやFTTH（ファイバツォーザホーム）に欠かせない物が光ファイバです。髪の毛ほどの太さの光ファイバ1本で皆さんの音声や映像、コンピュータのデータなど驚くほど多くの情報を送ることができます。本プログラムでは、光ファイバの原理をやさしく説明したあと、顕微鏡を使って光ファイバの中を光が通っていく様子を手にとって確かめるなど、光ファイバの実態に迫っていきます。

プログラム3【人の思考を探るヒューマンファクタ研究の体験】

説明書を見てもよくわからない、間違えてしまう、という経験はありませんか。間違いを減らすためには、人が何を考えどう行動するのかを明らかにする必要があります。本プログラムでは、人間の行動を観察することで人間の考えを探り、どこがいけないのかを見つける、というデザイン改善の1プロセスを体験していただきます。



スケジュール（予定）

1日目 3月21日（水）
14:30～15:00 集合受付
15:00～15:30 開講式／オリエンテーション
15:30～17:30 展示ホール見学（研究開発成果見学）

2日目 3月22日（木）
9:30～12:00 プログラム1：目に見えない動画透かし技術の体験
12:00～13:00 昼食
13:00～14:30 最新研究紹介（研究者による説明）
14:30～17:00 プログラム2：超高速ネットワークを支える光通信技術
17:00～19:00 講師等との交流会

3日目 3月23日（金）
9:30～12:00 プログラム3：人の思考を探るヒューマンファクタ研究の体験
12:00～13:00 昼食
13:00～14:30 まとめ（実習全般の振り返り、感想の発表）
14:30～15:00 閉講式・解散

※1、2日目の夜は宿舎でミーティングを行います。

プログラムの関連図書、Webサイト紹介

【プログラム1】の関連Webサイト
・「レポート：モバイル動画透かし技術」（NTT「技」サイト）
<http://www.waza.jp/technology/?a=technology&technologyId=5>
・「モバイル電子透かしとは」（NTT技術ジャーナル2005/8）
<http://www.ntt.co.jp/journal/0508/files/jn200508078.pdf>
【プログラム2】の関連Webサイト
・「未来ねっと研究所」
<http://www.ntt.co.jp/mirai/organization/organization04.html>
・「10Tbit/s級超大容量光伝送技術」
<http://www.ntt.co.jp/RD/OFIS/active/2009pdf/hot/nw/06.html>
【プログラム3】の関連図書・webサイト
・「誰のためのデザイン？—認知科学者のデザイン原論」
著者：ドナルド・A. ノーマン 出版社：新曜社
ISBN：478850362X（1990年出版、3,465円）
・「ICTデザインセンタ」<http://www.waza.jp/idec/>